

株式会社文藝春秋 様／凸版印刷株式会社 様

ColorEdgeの表示を共通の色基準としたデジタルデータの運用でワークフローの効率化とスケジュールの短縮、品質向上を実現。

出版の現場における画像データのデジタル化が進む中、株式会社文藝春秋(以下、文藝春秋)と凸版印刷株式会社(以下、凸版印刷)では、二社間共通のデータの色基準を設けるため、ColorEdgeを用いたRGBデータの運用ルールを設定した。まず凸版印刷から提案されたモニター設定値を元に、両社で使用するColorEdgeをすべて同じ設定値にキャリブレーションし、すべてのスタッフが同じ色を見られる環境を整備。このColorEdgeのRGB表示を色の基準とした。これにより両社間のコミュニケーションはスムーズに進み、データの精度も向上。さらに文藝春秋社内に設けられた凸版印刷の画像ブースも有効に機能し、最終的に出版物の品質向上につながった。

出版の分野においてデジタルカメラが普及したことにより、画像を素早く大量に撮影・編集できるようになった反面、色の基準が曖昧になり、色に関する悩みが増えている。たとえば『担当者や部署によって使用するモニターが異なり表示される色が違うため、前工程の意図が次の工程に正しく伝わらない』『印刷会社に入稿されたデータが出版社内と同じ色で見られないため、色校正が何度も必要になる』など問題は様々にある。

デジタルデータ運用の課題

文藝春秋が出版する多くの出版物の中では特にスポーツ雑誌においてデジタル化が急速に進んだ。スポーツ雑誌では校了ぎりぎりのタイミングで、直前に行われた試合や会見など緊急に入稿しなければならぬ記事が多くある。その際印刷会社からの色校刷りを待つ時間が無く、結局色校正を行わずに校了せざるを得ない場合もあり、「仕上がりの色が意図していた色と違う、と現場から相談を受けることが多くなっていました」と文藝春秋 マルチメディア部の大東氏は話す。印刷を担当する凸版印刷 情報・出版事業本部長友氏も、「短いスケジュールの中でも、編集部の色に関する品質満足度を向上させることが目下の課題でした」と振り返る。



同じ色を共有することでデータのバトンタッチがスムーズに

このような課題を解決するために文藝春秋と凸版印刷が考えたのは、二社間で共通の色基準を持ち、RGBデータを同じ環境で評価できる環境を構築することだった。「印刷までの工程をスムーズに進めるためには、制作の過程を通してRGBデータを各社、各部署が一定の環境で評価することが重要だと考えました」と長友氏。そこで文藝春秋の各部署には凸版印刷でも使用しているColorEdgeを導入。すべてを同じ調整値にキャリブレーションすることで、文藝春秋社内そして凸版印刷の全てのスタッフがデータを同じ色で確認できるようになった。

その結果、たとえばカメラマンが画像デー

タを選定してデザイン部に渡した時にも、データをColorEdgeで表示することによって撮影意図が正しく伝わるようになり、それに合わせた適切な画像加工が行えるようになるなど、文藝春秋の部署間、工程間でRGBデータのバトンタッチがうまくいくようになり、スタッフが共通の色の認識を持った精度の高いRGBデータが入稿されるようになった。またワークフローもスムーズに進むようになり、スケジュールの短縮に繋がった。





色についての共通認識を持てるから 安心して入稿できる



凸版印刷においても入稿されたRGBデータをColorEdgeで表示することで、文藝春秋と同じ色を共有できるようになった。凸版印刷ではこのColorEdgeに表示された色を色見本として、CMYKデータへの変換を行うのはもちろん、その後の印刷の工程を進めている。その結果、場合によっては色校正を行わなくても文藝春秋では意図したとおりの色が刷り上がりとして得られるようになった。デザイン部のスタッフも、「目の前で見ている画像・イラストの色がそのままの色で印刷されるという安心感を持って作業を進めていけるようになりました」と話している。「今回整備した環境の意味は、RGBデータを運用する範囲では凸版印刷も含めて全てのスタッフが、ColorEdgeを通してお互い色に関して共通認識を持てるということです」と大東氏。「その結果、文藝春秋としてどのような意図でデータの色を見ているか、ということを正しく凸版印刷側に伝えられるということが重要なんです」

さらなるスケジュール短縮に モニター上で色校正

さらに先のスポーツ雑誌のような緊迫したスケジュールにおいても、より短期で色校正を出し、確実に色の確認を行えるようにと作られたのが、文藝春秋内にある凸版印刷の画像ブースである。ここでは凸版印刷の画像編集スタッフが、入稿されたデータに対して印刷用に補正を加えたり、校了ぎりぎりに入稿された画像データを直接画像編集したりする。画像ブー

スに設置されたColorEdgeとプリンターはカラーマッチングがしっかりと行われており、ColorEdgeに表示された色を正しく、色校正紙として出力することができるようになってきている。こうすれば工場から送られる色校正紙を待たなくとも早い段階で校正を行える。また文藝春秋のスタッフが直接ブースを訪れて画像の最終チェックを行うこともでき、さらなるスケジュールの短縮を実現する。

モニター選びは カラーマネージメントの第一歩

「このような運用を成立させるのにまず必要なのは、データを正しく再現できる性能を持つモニターを基準としたルール作りです」と長友氏。基準となるモニターとしてColorEdgeが選ばれたことに関しては、「モニターの選定にあたっては、我々も色を扱うプロフェッショナルとして常に厳密な検証をしています。高い基本性能はもとより、簡単かつ迅速なキャリブレーションができること、個体差が少ないこと、RGB色再現の正確さなどを考慮した結果ColorEdgeを採用しました」と話す。プロフェッショナルの厳しい要求に応えるColorEdgeの性能が認められたといえる。

長友氏はさらに「RGBデータを取り扱う上で色の基準となるのはモニター上の色調や階調となりますので、色を扱うプロフェッショナルには、ColorEdgeのような色再現性の良いモニターを使用して

欲しいと思います。まずはカラーマネージメントの第一歩として、ColorEdgeのようなモニターを導入して欲しいですね」と付け加えた。

■ 株式会社文藝春秋

大正12年(1923年)創設、『文藝春秋』を創刊。現在は単行本からスポーツ・ファッションなどの各種雑誌まで、男女問わず幅広い年齢層の読者を持つ様々な出版物を発行している総合出版社。

■ 凸版印刷株式会社

明治33年(1900年)創業。日本最大規模の総合印刷会社として発展。証券印刷・出版印刷・商業印刷・パッケージ等はもちろん、現在では、ICカード、エレクトロニクス、Eビジネスにまで、その事業領域は幅広い。

導入製品 ColorEdge CG19
ColorEdge CG210



製品に関する情報についてはEIZOホームページで

<http://www.eizo.co.jp/>

■製品に関するお問い合わせは

受付時間 月～金 9:30～18:00(祝祭日、弊社休業日を除く)

営業1部 03-5715-2011